西多摩医師会報

創刊　昭和47年７月　　第345号　平成13年９月

『アルプスの女王　モンブラン峰（4807ｍ）』　川崎健一郎

目　次

頁

1）執念で行った、ビバ・キューバ
　ー音楽とラム酒に漬ってー　田中穂積 … 2
2）傍目、八目　西村邦康 … 5
3）文芸随筆諸事百般
　立山黒部アルペンルート　石井好明 … 6
　短歌「お盆」　鹿野純一 … 6
4）第10回西多摩医師会「納涼の夕べ」開催　広報部 … 7
5）各部だより
　学術インフォメーション　学術部 … 8
　病院部委員会報告　病院部 … 11
6）三公立病院外来診療担当医表　広報部 … 12
　公立福生病院
　青梅市立総合病院
　公立阿伎留病院
7）理事会報告　広報部 … 15
8）会員通知・医師会の動き　事務局 … 18
9）お知らせ　事務局 … 20
10）表紙のことば　川崎健一郎 … 20
11）あとがき　細谷純一郎 … 21

新アドレス http://www.nishitama.tokyo.med.or.jp/

『執念で行った、ビバ・キューバ』

── 音楽とラム酒に漬って ──

田　中　穂　積

キューバというと知っているのはカストロによる共産社会と砂糖きびである。しかし、キューバ、何と心躍らせる響きでしょう。実を言いますと、昭和51年キューバ旅行に申し込みました。この頃日本から個人旅行者は受け入れられていません。だのに申し込み人数少なく、中止に。昭和52年クリーブランド・クリニックに行き、帰りに行こうとするも米国と国交なく行けず。そのうち情熱が薄れて行くのを感じていました。が一昨年５月私の教授の葬式後、渋谷へ。くじら屋で１パイ、時間があったので喪服にて、ブラブラ、そこで、“ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ”なるキューバの老ミュージシャン、一名は仕事なく靴みがきを、これらのミュージシャンをライ・クーダー、米国の名ギタリストが見つけ出し、再活動させるセミ・ドキュメンタリー映画を見て、私の心に眠っていたキューバへの思いがもどって来てしまったのです。子供達からは“オヤジ”と半分からかわれ、妻とは無言の業の毎日。何とかせねばと！
そのうち、昨年にはブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブの来日コンサートに、本年には映画のメイン音楽となった“chan chan”の歌い手、93才のコンパイ・セグンドの来日コンサートへと（彼とは偶然、コヒマールのレストラン、ラ・テラサにて昼食をしている彼に出会い、大感激。今、私が一番大好きなアーチストですもの……。ちなみにそれまでは、ジプシィー・キングスで、診察室には彼等の音楽を毎日流しています。）第三回目のトライは、私の昔からの赤坂の飲み屋ラテンライブハウス ambe からの計画、もちろん、申し込む。しかし、中止。本年７月新聞に JAL チャーター便にて７日間キューバへとの広告。すぐ申し込む。家族６名で行く予定は長男と２人で行く事に。８月15日水曜、午前８時、立川を出発、関空、バンクーバー経由で、キューバのハバナへ当日の18時、時差 －13時間、飛行時間18時間、着いた時には疲れたという感じ。すぐホテルへ、レビューのライブを見ながらクリスタル・ビィールを、これは立川のラテンライブハウス la Bamba にて良く飲んでいるビィールでした。その後ピザをイタリア風のアッサリ味でおいしかった。そこにギター２本とマラカス＆ボーカルのトリオがまず、奥の米国人に、国交のないアメリカより何故入国出来るのか。それは近くのジャマイカ、等の国へ行き、そこからビザなしで入国して来る、我々もキューバからのビザはなく、出入国カードのみである。故の私のパスポートには、入国、出国スタンプは入ってますがどこに行ったかというスタンプはありません。

共産社会ですがぬけ道をちゃんと国が作っているようで、ラテン的と言えばラテン的と言えるのか？又外国人は現地通貨のキューバ・ペソは使えず、全て US ＄を使う事が義務づけられています。２年前より観光に力を入れ出しているとの事です。さて、レストランの続きです。トリオが我々の所に来ました。ガンタナメラ（グンタナモの娘さんという意味）を歌ってくれ、息子にマラカスを渡す、ちゃんとリズムに乗りマラカスをキザンでいる。次、キエレメ・ムーチョ、私にマラカスが、ルンバのリズムで、マラカスを切る。

２年前より、ラテン・パーカッション教室で、習っていた事が生かせた。曲が終り、“あなたがたはミュージシャンか？”と、我々親子、得意気に No と！そして、黒い涙、さよならキューバ、chan chan、知っている曲どんどん、やってもらう。ついでに彼等の CD を買う、これが恐怖の始まりであ

る。次の日より行く所、音楽あり、CD を買う。バスの中、ポータブル CD プレーヤーでチェック、ホテルに帰る。脳の中、音楽がグルグル回っているのである。２日目、ハバナ市街地を観光。夜はかの有名なるナイト・クラブ、トロピカーナへ、カメラの持ち込み＄５、ビデオ＄15、との事、止めた。しかし、音楽、ダンスともに素晴らしく、あっという２時間でした。そして、皆、国家公務員との事でした。４名のテーブルに、ラム酒１本、コーラ４本、ビィール４本、日本からのメンバーと二人でラム酒１本開けました。バカでした。次の日、二日酔、キューバまで来て！反省。バスにてトリニダーへ、ひたすら寝る。昼には回復。トリニダーは砂糖きびと奴隷の売買の中心都市として栄えた町で、奴隷制度のなくなった現在ではさびれゆくのは仕方無い事に思えますが、18世紀のキューバの代表的街並として、世界遺産に登録さている、石だたみの落ちついた町でした。

しかし、突然の夕立、全身ずぶぬれとなる。地元の子供達は水着に着替え、石だたみの急流で水泳を、水あびを楽しんでいました。スバラシ!!　我々も小さい時、やったかな？　昼飲んだ、ラム、はちみつ、レモン＆ミネラルを混ぜたカンチャンチャラと言うレモネードのような飲み物を飲みながら、ジィサンのコンガを聞く。自己流なんでしょうが楽しく、色々な叩き方がある事を見ました。コンガでかかりの悪いオートバイをかけ、ちゃんと走り出す所まで延々とやってました。中南米では物を模写する音楽は多く、特にアルパ（インディアン・ハープ）と呼ばれる木製のハープによる“カスカーダ”これはイグアスの滝を、“牛乳列車”は汽車の出発から止まる所まで楽しませてくれます。夕食はバイキング、飲み物は輸入ものでなければ、飲み放題故、ダイキリとモヒィートを、又飲み過ぎ。０時には室に、しかし現地のダンサー、従業員、息子達若者は２時頃まで、踊っていたようである。

何せ、ホテルについてすぐ、カリブ海で泳いだのであるから。

次の日、大西洋に面した高級リゾート地であるバラデロの町へ、馬車がタクシーがわりに使われているのには、ほほえましく、又、ほろ苦い感じも受けました。昼食、いつものキューバ料理、おいしかった。店のトリオはギター２本とボーカリスト、彼は他にボンゴ、ギロ、カンパナと独り四役で、そして、うまいのです。日本に来たらその店は毎日満席になるだろうなと、CD を買う。夕食前に大西洋にて一泳ぎ。夕食はいつものキューバ料理を８時から、飽きてきた。ラーメン食いたい。10時よりペレス・プラドが関係して来た、マンボ・クラブへ。11時からの演奏が延び、ネムイし、ブウブウ、ブツブツ。11時半より演奏、音がなるや、ネムケは消し飛び、体は自然に動き、その迫力に圧倒され、皆フロアーに飛び出し、大汗をかき、踊り狂う、０時を過ぎても誰一人、帰ろうと言わず。マンボNo.５、セレソローサ等、かつて聞いた古き良き時代より何倍もの興奮をもって聞く、又、司会者、日本人がわざわざ来てくれた事に感謝すると言っていましたとの事。夜寝付くも脳の中は強烈なる金管楽器が叫び、吠えていた。次の日は、ヘミングウェイが愛した漁村、老人と海の舞台になったコヒマールへ、空はあくまで青く、海もあくまでも青く

と言いたい事ですが、やはりビッニィールやカンにて汚れていました。ヘミングウェイ常連のレストラン、ラ・テラサ。窓を開け、天井よりゆっくり回る扇風機の下で、かの93才になっても現役のミュージシャンとして、又５人目の子作りに挑戦しているコンパイ・セグンドに会おうとは。皆がTシャツなのに、彼、灰色のフェルトの帽子をかぶり、それよりちょっと濃い目の上着を、しぶいピンクのYシャツ、茶のネクタイ、そして、葉巻、やはり大スターである。大感激！　しかし、カメラのフィルムがちょうどなくなってしまいました。残念。しかし、ビデオではちゃんと写して来ました。

そして、ハバナ旧市街地、フロリディータへ、ここはヘミングウェイが毎日かよったバーで、シュガーシロップぬきの“パパ・ダイキリ”は絶品であり、観光客が次から次へと入って来てダイキリを飲んで行きました。一番スミの席はパパの席で、ロープで仕切られキープされています。

ダイキリ　Daikiri

3年もののホワイトラムと、レモンジュース、シュガーシロップをシェークし、カクテルグラスに満たす。上記に氷を入れ、ミキサーにかけたものは、フローズン・ダイキリ。ヘミングウェイは、シューガー抜きのものを愛飲していた。コヒマールのラ・テラサにて撮影。

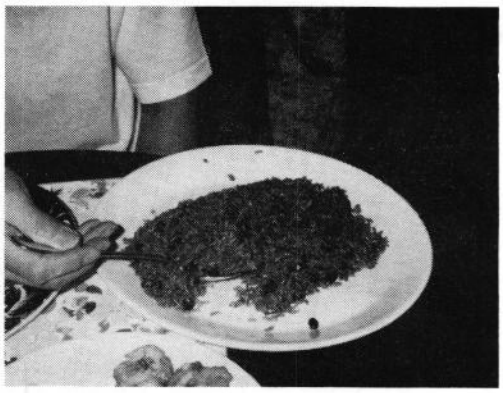
モヒート　Mojit

3年もののホワイトラムに、イエルバ・ブエナというミントの葉、レモンジュースを合わせたさわやかなカクテル。葉を少しずつつぶし、ミントの香りを楽しみながら飲むのが正しい作法とか。ラ・ボデギータ・デル・メディオにて撮影。

最後にカストロとチェ・ゲバラがおこした革命のさまざまな品を展示してある革命博物館へ。

さて、そろそろキューバともお別れである。現在では人種差別の一番ない国と言われ、陽気で明るい人々のいる本州の２分の1の国。サルサの国、リズムとダンスの国、ラム酒の国、葉巻の国、1950年アメ車の残っている国、みやげ物のあまりない国。ちなみにキューバ人の平均月収は＄30と言われている。但し、医療、教育、住宅費がほとんど無料である。差額ベッドはやはりあるとの事。平均寿命は男 73.5才、女 77.5才との事、収入だけ考えると良くないが、音楽を聞き、ノンビリと生きられるこの国は悪くないと思えて来ます。

ＰＳ：キューバの主食はコングリと言う米で、黒豆を入れて炊いた塩味のちょっときいた赤飯のようなもので、飽きが来ません。とり肉、牛肉、豚肉は塩で淡白に煮たもので、少々飽きました。



ＰＳ：キューバの気候は、夏、東京と同様、しかし、湿度は少なく、木影では涼しいです。冬は20～25℃の快適なる季節になるとの事。

キューバはこれから観光に力を入れて行くとの事です。日本食、中華料理が食べられる事を期待。又、来年行くかと言われたら、ジィ（Yes）と、その為には徹夜出来る体力を作る事が必要のようです。

ブエナス・ノーチェス！

乱筆乱文を読んで下さった、方々には

ムーチャス・グラシアス！

『傍目、八目』

西村邦康

小泉総理の痛みを伴う聖域なき骨太の改革のフレーズで自民は参院選に快勝しその改革は始動した。

骨太の改革の中で経済諮問会議はもっと効率の良い医療体制を作るべきだと強調し痛みを伴う医療改革を目指している。痛み（医師の）を伴う改革ならば（我々も）市民の為に皮を切らして肉を切るの根本的な21世紀の医療改革プランを日医の構想をふまえて現場地区医師会から挙げなければと期待し会報をみたが……銷夏のときでした。

しかしふとある言葉が蘇ってきた『難しい事は都医、日医に任そう、地元は仲良く楽しく』と昭和46年の保険医総辞退（ストライキ）の時の西多摩医師会総会で『末端の声を上に上げよう』と言った会員の声に会長が応えた言葉であった。

坪井日医会長は先日出版した『我が医療改革論』の中で武見さんが、かつて医師会を『おれの言っている事に同意してくれるのは1/3だけ、残りの2/3のうちの半分は、どうしても理解してくれない人達だ』と嘆き、その人達が診療報酬を上げると言う事だけを言ってくるので、それを「欲張り村の村長さんの集まりだ」と言い。それから、あとの1/3はノンポリで全くものを考えない、どちらでも良いと思っている人達ですと述べたと書いている。医療界の牽引役である日医、都県医師会レベルでもそうかといまさらながらの思いがしこれが今も続く医師会の現実かと思いがっかりもした。

来年度シーリングで社会保障関係は3000億円の減額が提示され老人医療費抑制で埋め合わせをする。その原資はリストラで厳しい市民の負担となる保険料率、一部負担金値上げ、ではなく医療費抑制で医療機関負担となるようだ。

先日の新聞に年間医療費22兆500億円のほぼ半分47.4%が、施設数では3%に過ぎないベット数200以上の病院が占めている。また内閣府の調査で老人の受診先は日本では一般病院が62.7%と多く、医療サービスの満足度は日本32.2%、アメリカ76.5%であった。

『医療は医学の社会的適応』と規定し「物と技術」の分離を主張して保険点数が決められた武見会長の頃とは違い、その保険点数算定は物（薬剤、医療機器）の割合が増大した今日その基準は異なると考えられ解り難い、一見技の評価とも見られる指導料、管理料等導入政策で医師の批判を逸らしている。例えば入院医療では平均在院日数規定の縛りで院長の関心事は平均在院日数であり医療は経済活動と転換し患者の早期転院が促され市民の医療機関不信を増強している。しかし総医療費削減に役立っていない。

坪井会長は上記著書で日本の医療制度は世界に誇れるものとしながらも痛みを伴う医療改革には四の構造改革（意識、制度、コスト、情報）が必要と会員に期待をし特に老人診療医療機関（介護老健施設、老人病院）の自主的な意識構造改革を求めている。市場経済、構造改革、規制緩和の時代そして医療は供給が需要を喚起する実態を考え、診療所として、1）特定機能病院（大学病院）の診療費は保険適用外（療養費払い）とし、窓口支払いでコスト意識（病院及び医師、患者）を徹底する、競争原理の世の中、仮に特定病院が消滅しても良いではないか。2）老人医療費抑制が課題なら老人病院、介護老健施設の保険除外＝介護保険適用を強調したい。3）医薬分業の徹底で非難のもとになっている薬をはずし、他医療機関の投薬の確認で重複投薬の回避である。を言いたい。

市民に医師会は『欲張り村の村長さんの集まり』と批判されない為に。

文芸随筆諸事百般

立山黒部アルペンルート

石井好明

前日は雨。「雲が山から下りてくれば、上は晴」という土地の人の言葉を頼りに、宿を出る。立山駅からケーブルカー、高原バスと乗り継いで山を登る。窓外は一面の霧。近くの木立が次々と影のように現われ、消える。登るにつれて、空が明るくなる。弥陀ヶ原で途中下車。青空が見える。予報は当った。雲は次第に消えて、湿原の北を限る大日岳山系の残雪が見えてくる。散在する池塘や足もとに咲く花を探しつつ木道を歩いているうちに、山の稜線がすっかり現われた。立派なホテルの食堂で中食。窓から見える裏庭に、水芭蕉が咲いていた。

再びバスで山を登る。室堂が近づき、右に大きくカーブをきると、左手正面に見えてきたピラミッドは剣岳ではないか。こんなによく見えるのか、と慌ててカメラをとり出す。その右に、立山全山が残雪に飾られて、屏風絵のように並んでいる。あのギザギザの稜線を縦走したなんて、夢のようだ。（46年前、一緒にあそこを歩いた医局の７人の中、４人は既に亡い。時の流れを感ずる。）室堂に着く頃、剣岳は立山の陰にかくれてしまった。雪の残るみくりが池のほとりを、山を眺めつつ、シャッターをきりつつ散策する。皆んなに遅れて急ぎ足になったら、さすがに海抜2,500メートル、忽ち息がはずんだ。

さらにトンネルの中を走るトロリーバス、トンネルを出てロープウェイと乗り継ぐ。眼下に黒部湖が見える。湖面はうす緑。（あの時は、あの水面の下に深く沈んでいる黒部下の廊下の絶壁にかかる桟道を、股の下に見えるはるか谷底の激流にゾッとしながら歩いたのだった。）またトンネルの中のケーブルカーに乗りかえて、黒部湖に着く。見下ろす下流の谷をまたいで、ダムの放水による虹がかかっていた。堰堤の上を歩くにつれて虹も移動し、向う側に渡り終ったら消えてしまった。

再びトンネルの中をトロリーバスでひと走りして、ルートの終点扇沢に出た。「文明の利器によって歩かなくとも行ける立山黒部アルペンルート」と、多少軽く見ていたが、実際に行ってみると、間近に眺める剣・立山連峰の迫力は予想以上だった。

「お盆」

鹿野純一

先輩の御供養に行き奥方と
　思い出話で焼香忘れ

院長の亡き後病院支えたる
　夫婦の人柄残る雰囲気

お盆の日未亡人の写真とり
　反対に我もポーズとらさる

夕焼けに四階建ての病院の
　赤レンガは郷愁をよぶ

駅前に綿の様な花が咲く
　三本の木お盆の夕暮れ

十年前センターラインを乗り越えし
　今は道路に黒い金網

お盆の日胡瓜と茄子で馬作り
　テレビッ子の孫変な顔する

第10回 西多摩医師会「納涼の夕べ」開催

第10回西多摩医師会「納涼の夕べ」が、平成13年7月23日（月）午後7時30分より昭島のフォレストイン昭和館９階「眺林」で開催された。

梅雨明け前から連日の熱帯夜で少々バテ気味の中、西多摩医師会会員相互の親睦と病院と診療所の会員の顔合わせにより病診連携をさらに深めることを目的にＡ会員24名、Ｂ会員等23名が出席した。なかでも公立福生病院からは９名の会員が出席され、新生なった福生病院が今後の病診連携にかける意気込みを感じさせた。

生ビール片手に歓談する中、まず上智大学サンバ同好会のメンバーによる演奏と歌が披露された。ポルトガル語学科の学生がほとんどで本場顔負けのリズムと歌で会場を魅了した。若さと熱気に包まれた演奏に見とれていたのは私ばかりではなかっただろう。

続いてもうすでに恒例となってしまったフラダンスチームが登場した。メンバーもふえ、年々フラダンスもうまくなってきた。サンバ組もびっくり。今年は少し平均年齢が若くなったようだ。

最後に今や名司会者と評判の葉山会員とサンバのボーカル（素敵な女性）によるビンゴゲームに夢中になった。今年は、会場の立地条件や他の会合と重なったことなどで、例年より参加人数が少なかったが、かわりにほとんどすべての参加者にビンゴゲームの賞品があたった。

（文責：森本　晋）

野村都議を囲んで

上智大学 サンバ同好会

おなじみ フラダンス

司会者もニッコリ

各部だより

学術部 Information

≪9月≫

西多摩医師会学術講演会のご案内

1 日　時：平成13年9月12日（水）
場　所：西多摩医師会館
演　題：『呼吸器疾患治療のコツ』－ COPD診断と治療 －
東京女子医科大学呼吸器センター　所長　永　井　厚　志 先生

2 日　時：平成13年9月19日（水）
場　所：西多摩医師会館
演　題：『循環器疾患……急性期治療、慢性期治療』
町田市民病院循環器科　部長　石　川　眞一郎 先生

《学術講演会要旨1》

平成13年7月27日（金）
演題：「気管支喘息の診断と治療」
講師：半蔵門病院内科　副院長　灰　田　美知子　先生

要約

喘息という疾患

1．典型的な喘息は呼吸困難が発作的である
2．発作がおさまればほとんど無症状

喘息の定義

1．従来は、気管支・気道が収縮したものであり、気道の反応性の亢進が亢進した状態であると捉えられていた。
2．現在は、気道収縮だけではなく、肥満細胞、好酸球等の炎症性細胞による気道の慢性炎症が根本に起こっていると認識されている。

喘息死

1．喘息は増加しているが、原因は大気汚染、住居の問題が考えられる。
2．しかし、喘息死は50年前に比べると約１／３に減少。
3．ただし、年間に約6000名が喘息により死亡しており、これは白血病の年間の死亡者数約5910名とほぼ同程度であるが、恐ろしい疾患との認識はされていない。
4．米国、ニュージーランド等と比較し人口10万人に対する喘息死数は多く、治療に対する認識が甘いというのが現状である。
5．喘息死亡例の特徴として、うつ状態・社会的不適応・楽天性等があげられる。
6．発作のピーク時にβ刺激薬を使用しても効果が現われず死亡するケースもある。
7．β刺激薬は、発作の早期の段階で使用するように患者に指示する必要がある。
8．吸入ステロイドの普及と喘息死の減少には相関があり、吸入ステロイドによる治療が基本となる。

診断の目安

1．喘息の診断には基準はないが、下記の点を目安に診断を行なう。
①発作性の呼吸困難
②可逆性の気道収縮
③過敏性の亢進
④アトピー性素因の存在
⑤鑑別診断を必要とする疾患を見分ける
⑥炎症の存在

喘息治療の目標

1．喘息症状がない状態を保つ
2．副作用を回避する
3．気道閉塞を防ぐ
4．これらの目標を達成する為にはピークフローを必ず使用させ、コントロール状況をフォローする必要がある。

喘息の薬物治療

1．吸入ステロイド、β刺激薬
吸入ステロイドの効果発現は遅い。
サルタノール（β刺激薬）＋ペコタイドの組み合わせにより喘息の即時相反応、遅発相反応の両方を抑制できる。
β刺激薬のホクナリンテープは抗炎症作用はないが貼付剤なので使いやすい。
2．ロイコトリエン受容体拮抗薬
ロイコトリエンはヒスタミンの約1000倍の気管支収縮作用があり、ロイコトリエンを抑制することは喘息治療において非常に重要である。

ロイコトリエンの産生はステロイドにより抑制できないが、ロイコトリエン受容体拮抗薬は受容体レベルでロイコトリエンを抑制する。
喘息治療においては吸入ステロイドが基本になるが、吸入ステロイドにのみこだわる必要がなく、ロイコトリエン受容体拮抗薬も考慮する。
モンテルカストの国内治験データではモンテルカストと吸入ステロイドの併用がテオフィリンと吸入ステロイドの併用よりも効果が現われたとの報告がある。
８月発売予定のモンテルカストは、１日１回投与でコンプライアンスが良好である。

《学術講演会要旨２》

平成13年８月９日（木）

演題：「心房細動に対するカテーテルアブレーション治療の実際」

講師：土浦協同病院循環器科　医　長　高　橋　　淳　先生

座長：青梅市立総合病院循環器科　副部長　大　友　建一郎　先生

心房細動は加齢とともに増加し、その頻度は70才で10％に達するといわれる。近年、慢性心房細動への移行を予防するための発作性心房細動の治療の重要性が指摘され、薬剤抵抗性の発作性心房細動に対してカテーテルアブレーション治療が行なわれるようになってきた。

カテーテルアブレーションは心臓カテーテル手技により心臓に進めた電極カテーテルに高周波を通電して不整脈の起源を焼灼する治療法である。開発当初は、心房細動に対してすでに確立されていた外科手術であるＭＡＺＥ手術を模倣して右心房あるいは左心房に線状のアブレーションを行なって心房細動の回路を寸断する手法が試みられたが、手技が煩雑で長時間におよび合併症も多く、洞調律を維持するのは30～40％にすぎなかった。３～４年前より発作性心房細動の多くが、左心房から肺静脈へ迷入した心房筋を起源とする心房性期外収縮（ＡＰＣ）あるいはその連発により惹起されることが判明し、この肺静脈内より起こるＡＰＣをターゲットとしたアブレーションが行なわれるようになってきた。

上下左右４本の肺静脈内でアブレーションを行なうことに技術的困難さがあることなどから複数回のアブレーションを行なうことが多いものの、合併症が少なく、洞調律維持率すなわち成功率も70～80％に達している。現時点では70才以下の比較的若年で薬剤抵抗性の発作性心房細動が主たる本法の適応と考えられるが、今後技術の進歩とともに更なる適応の拡大が期待される。

（文責：大友建一郎）

病院部

病院部委員会報告

開催日：平成13年７月31日（火）
場　所：西多摩医師会館
出席者：坂本（青梅市立）、中谷（公立福生）、馬場（公立阿伎留）、川辺（奥多摩町立）、石田（梅園病院）、高木（高木病院）、神定（慶友病院）、蓼沼（日の出ヶ丘病院）〔敬称略、順不同〕
議　事：医療機能連携推進事業の実施

１．12年度事業報告

２．13年度事業計画

１）診療所ホームページ作成。

12年度の病院に継いで診療所ホームページを作成し、多摩地区の医療機関インターネット構築の基盤を完成する件。

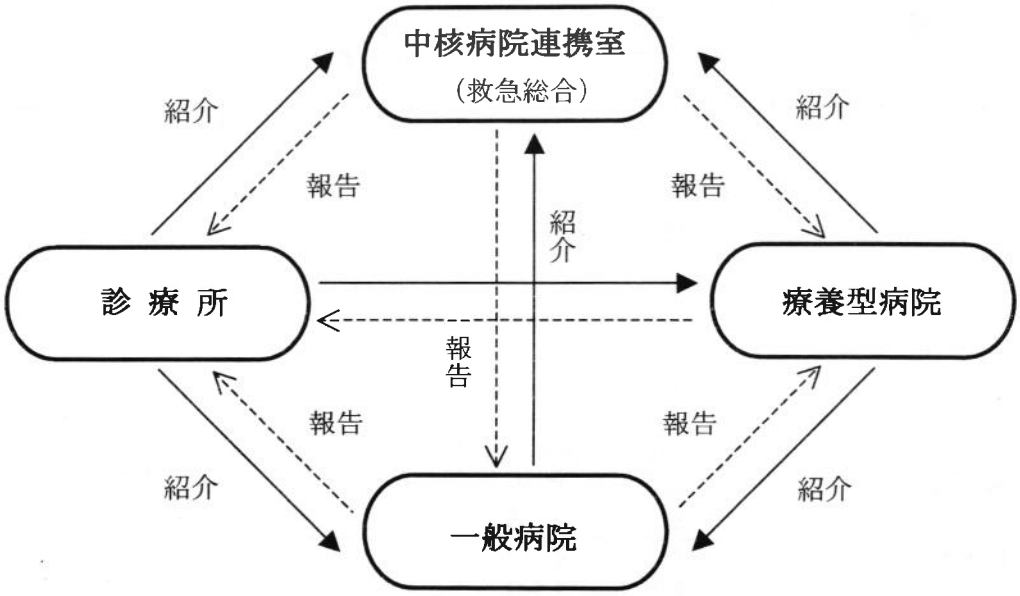
２）西多摩地区の公立基幹病院に地域医療連携室を設置する件。

結　果：１と２の１）は了承。

２の２）連携室整備は病診連携と機能連携の推進にとって最重要と確認された。

○中核的機能を負う三公立病院（青梅、福生、阿伎留）を重点に充実させる。
○連携室業務は、相談窓口、紹介授受、入院授受、診療報告、連携便りなどを中心に管理調整する。
○担当者は急性期病院で医事課職員、慢性期病院では相談員（ケースワーカー）が当面は該当する。
○現在、青梅総合で行なっているＦＡＸ紹介の共通実施。
○紹介状に対して確実に報告を返すための手順方法を作る。

病診連携図



病院部部長　坂　本　保　己

広報部

公立福生病院　外来診療担当医表

平成13年8月1日現在

科別	曜日	月	火	水	木	金
内科	午前	北島 栗原 鈴木	松原 津金澤 堀川	中谷 栗原 小浦	北島 堀川 寺内	中谷 松原 松本
	午後	脳卒中外来　森 糖尿病　北島	神経内科　栗原 膠原病　浦野 呼吸器　清水	甲状腺　津金澤 循環器　菅野	肝臓病　松本	神経科(1・3・5週)原 交互(2・4週)未定
	透析	津金澤(前・後)	北島(前)・津金澤(後)	津金澤(前・後)	津金澤(前)・堀川(後)	津金澤(前・後)
	内視鏡	松本(午前)	栗原(前)・松原(後)	松本(午前)		栗原(午前)
	エコー			松本(午前)	松本(午前)	
検診	午前	中谷		鈴木		水川
外科	午前	諸角	宮崎	古川・田島	諸角・中村	仲丸
	午後		諸角 (1時30分～2時30分)			
	エコー	古川・仲丸	古川・田島	古川・仲丸・田島	仲丸・中村	宮崎・矢部
	内視鏡	古川・仲丸	諸角・仲丸・中村	古川・仲丸・田島	宮崎・古川・田島	古川・田島・中村・矢部
整形外科	午前 1診 2診	柴崎	森 森山	森山 釼持	柴崎 八木	釼持 森
	午後	手術日	予約検査	手術日	予約検査	手術日
皮膚科	午前	佐久間	佐久間	長島 初診・特殊疾患のみ	佐久間	佐久間
	午後	手術日	予約制外来	予約制子供外来 (14時～16時)	予約制外来	
眼科	午前	稲見	手術日	稲見	稲見	稲見
	午後	コンタクト外来 (2時～3時)	予約検査	予約検査	予約検査	
耳鼻科	午前	菅家 山口	山口	菅家 山口	交替制 手術日	菅家 山口
	午後 2時～4時	学童外来　山口 鼻・副鼻腔外来　菅家	補聴器外来 難聴・補聴器外来	頭頸部腫瘍外来	手術日	手術日
小児科	午前	大木	松山 (第2・4週) 五月女 (第1・3週)	中條	五月女	松山
	午後	特殊腎臓 松山 (1時半～4時)	予防注射 五月女 (1時半～2時)	小児内分泌(第2週) 樋口 (1時半～3時)	乳児検診(予約制) 葭葉(心臓病) (1時半～3時)	喘息・呼吸器1・3週 ↑伊藤・中條↓ 6・9ヶ月検診 2・4週
婦人科	午前	吉岡	苅部	望月	吉岡	青木
産科	午前	苅部	吉岡	青木	苅部	望月
泌尿器科	午前	加藤	名出	加藤	川村	加藤(11時迄)
	午後	予約検査	手術日	予約検査	手術日	
脳外科	午前	小山	小山	中川	小山	中川
ペイン (予約制)	午前	休診	勝又	休診	村井 (9時半迄)	休診

広報部

青梅市立総合病院　外来診察分担表

平成13年8月1日現在

診療科	月	火	水	木	金	備考
新患担当	桜井	原	大玉	今井	坂本	専門別担当医
総合担当	佐藤	伊藤	神経内科で担当	廣江	古賀	循環器病　坂本・廣江・副島・倉林・大友
血液内科	木田	今井	今井		木田	消化器病　宮川・細井・石井
内分泌代謝科	原		丸野	関口	原	血液病　今井・木田
腎臓内科	栗山	室賀	佐藤	栗山	室賀	リウマチ、膠原病　桜井
神経内科	仁科	叶内	松本(午後予約)	叶内	仁科	腎臓病　栗山・室賀・佐藤
呼吸器科	大玉	高野・吉井		今川・大玉	高野	糖尿病　原・関口・丸野
消化器科	宮川	細井	石井	宮川	石井 細井	神経内科　叶内・仁科
循環器科	坂本 加納	大友 廣江	副島	坂本 大西	倉林	呼吸器病　大玉・高野・吉井
外科	正木・杉崎	山田・縄田	藤田・菖蒲	森田・正木	山田・藤田	
胸部外科(心臓・呼吸器)	午後・大島		午後・白井			
脳神経外科	森	宮崎	森・鬼頭交代	鬼頭	宮崎	
整形外科	松岡／伊東 白川／五木田	松岡 白川	松岡 伊東	松岡／伊東 白川／五木田	伊東 五木田	
産婦人科　妊婦	高野	依光	金子	陶守	依光あゆみ	＊外来医師一部予約制導入
産婦人科　婦人科	陶守 依光	陶守 金子	高野 依光	高野 依光	高野 陶守	
皮膚科	馬場	馬場	馬場	馬場	田嶋	
泌尿器科	友石・玉城	石田	山田・玉城	友石・山田	非常勤医師	
小児科	林 菅本 崔	崔 阿部 朴	林 菅本 有賀	崔 菅本 朴	林 阿部 朴	
眼科	瀬口、小野尾	瀬口、小野尾	非常勤医師	小野尾	瀬口・非常勤医師	
耳鼻咽喉科	根岸	根岸 宇野	交代　根岸 非常勤	宇野	根岸 宇野	第4水曜日・石田
精神科　新患	山口	大石	山口	大石	三ツ汐	精神科・午後予約 月　三ツ汐 火　三ツ汐・山口 水　三ツ汐 木　山口 金　大石
精神科　再来予約 再来	三ツ汐・平山	三ツ汐・山口 大石	大石 山口	山口 山口	大石 小笠原	
放射線科　午前	佐藤(IVR) 福田穂積(放治)		佐藤			
放射線科　午後	張	張	石原	佐藤	小沢	
リハビリテーション科	中島(書類のみ)	中島	中島	中島	中島(書類のみ)	
口腔外科	高久	佐野	高久・友利	吉田	高久	

※　内科の　　は予約
※　内科の新患は各部長が担当します。

広報部

公立阿伎留病院　外来部門診療担当医表

平成13年8月1日現在

	月	火	水	木	金	土
内科 1	馬場	荒井	矢嶋	馬場	菅野	休診
内科 2	佐野	堀井	黒川	鬼田	増田	
内科 3	松陰	持丸	増田(2.4週)	黒川	伊藤	
内科 4	平沼	須金	佐野	佐野	持丸	
午後診 血液専門外来		馬場	持丸	馬場		
リウマチ科			西成田			
専門外来	神経内科 (河西) 糖尿病	循環器 江本(PM)	腎 (蓬田)	糖尿病	HOT (佐野)	
血液透析 午前	黒川	黒川	松陰	増田	鬼田	
血液透析 午後	黒川		黒川		黒川	
血液透析 夜間	増田		松陰		鬼田	
人間ドック		黒川		馬場	馬場	
小児科	岩本 北澤	岩本 北澤	岩本 北澤	岩本	岩本 北澤	
専門外来(午後)		乳児検診(予約)	予防接種(予約)	予防接種(予約)		
外科 1	矢嶋(予約)	矢嶋	矢嶋	矢嶋(予約)	堀井	
外科 2	永田	堀井	藤原(形成)	永田	遠藤	
整形外科	小谷野 星	星 榮	小谷野 榮	小谷野 星	小谷野 坂本	
脳神経外科	伊藤	藤塚	前村	矢崎	伊藤	
皮膚科 (午後診)	藤田 予約検査	藤田 アレルギー外来 (早川)	藤田 凍結療法	藤田	狩野	
泌尿器科	朝岡	藤村	朝岡	朝岡	朝岡	
産婦人科 婦人科	森田	森田	斎藤	森田	斉藤	
産婦人科 産科	斉藤	近藤	森田	斉藤	百村	
眼科	平岡 渡邊	山本 平岡・渡邊(手術)	平岡	渡邊 平岡(手術)	渡邊	
眼科	予約検査	予約検査	予約検査	予約検査	予約検査	
耳鼻咽喉科	河合 小野	河合 一川	河合 小野	鈴木 小野	河合 小野	
耳鼻咽喉科	アレルギー外来	手術	予約外来	手術	予約外来	
麻酔科			丸茂			
歯科	山下	山下 柳井	山下	山下	山下	

◆ 内科診療及び午後診療は予約を要します。

● 内科外来水曜日は、増田(2・4週)が診療を行います。

理事会報告 ★ Information

7月定例理事会　平成13年7月30日　西多摩医師会館

〔出席者：宮川・真鍋・玉木・細谷・横田・坂本・丸野・葉山・神尾・小机・森本〕

【1】 報告事項

1．都医地区医師会長協議会報告

Ⅰ．都医からの伝達事項

(1) 平成13年度東京都学校保健研修会全体会兼児童・生徒の健康づくり研修会の開催について

8月9日（木）AM10：00より、日比谷公会堂にて。午後からの出席でもよいから出席してもらいたい。

(2) 平成13年度東京都学校保健研修会学校医分科会の開催について

（東京都医師会学校医会第1回学校医研修会）

9月8日（土）PM2～4：30　都民ホールにて

(3) 保育所・幼稚園園児の保健管理、保健指導に対する医師会の取り組みに関するアンケート調査依頼について

(4) 予防接種法の一部を改正する法律案について

高齢者に対するインフルエンザを予防接種の対象疾病とすること等を内容とする。

（H13.10.1より施行予定）

(5) 老人保健法に基づく基本健康診査等の帳票類について

基本健康診査、各種がん検診の集計を行い、分析、検討した結果を一般都民に報告する。

(6) 「医療廃棄物相談窓口」の設置について

8月1日より都医衛生課に設置するので利用してもらいたい。

(7) 「都立病院の患者権利章典」の制定について

患者の権利（7項目）「良質な医療を公平に受ける権利」「診療に関して十分な説明、情報を受ける権利」「治療方法などを自分の意思で選択する権利」ほか。

患者の責務（3項目）「医療提供者に対し、患者自身の健康に関する情報を提供すること」ほか。

(8) 「第3回生命を見つめるフォトコンテスト」リーフレット配布について

(9) 日医医師年金の普及推進運動について

(10)　日医「女性会員フォーラム」の開催について

9月8日(土) PM1～4、日医会館に於て。2～3名の参加を希望する。

(11)　「地区医師会における女性医師会員の役割と現況調査」について

このアンケートに協力して頂きたい。

(12)　GCP実地調査の実施要領について

治験実施医療機関はこの調査に協力しなければならない。

(13)　安全な医療器材の開発に関する調査について

この調査に協力してもらいたい。

(14)　乳幼児医療費助成事業対象者の年齢引き上げ等について

10月1日より実施する。(6才に達する日以後の最初の3月31日までの間にある乳幼児)(義務教育就学前の乳幼児)

(15)　日本医師会認定産業医制度における研修会の開催について

Ⅱ. 協議事項

なし。

Ⅲ. 地区医師会からの報告

なし。

Ⅳ. その他

「都立病院改革会議」報告について

都医地区医師会福祉担当理事連絡会報告

7月25日開催　日医年金普及推進運動及び都医共済部会加入促進について

2. 各部報告

(総　務　部)　医療経営セミナー報告。

(経　理　部)　納涼の夕べ収支報告。

13年度納涼会収支明細

(13.7.23　於 フォレストイン昭和館9F「眺林」)

[収入]			[支出]	
会　費	10,000円×24人	240,000円	昭和館支払	517,146円
〃	5,000円×23人	115,000円	アトラクション(フラダンス)	50,000円
祝　金(杉本一先生欠席)		10,000円	〃　(上智大学生演奏)	30,000円
本会補助		444,750円	ビンゴ景品代	212,604円
	合計	809,750円	合計	809,750円

（産　業　医）　日医産業医研修会報告。
（病　院　部）　7月31日（火）病院部会開催。
（学　術　部）　8月9日（木）学術講演会（青梅市立総合病院）。

3．各地区会よりの報告　（各地区長）

（青　梅）　なし。
（福　生）　なし。
（羽　村）　クルージング中止。
（あきる野）7月16日（月）地区会。
（瑞　穂）　予防接種について、保健課と検討した。
（日の出）　なし。

4．その他

第1回三多摩緩和ケア研究会
第2回三多摩緩和ケア研究会、11月に青梅市立総合病院外科山田先生を座長に開催予定。
11月24日（土）ＣＣＵネットワーク、青梅市立総合病院が当番で開催予定。
癌健診について
多摩癌健診センターに依頼が集中している、控えるようにしたい。

【2】　報告承認事項

1．入会会員について　―― 承認 ――

Ａ会員　笹　本　良　信　会員 ― ささもと整形外科・形成外科クリニック　福生市
Ｂ会員　公立阿伎留病院　1名
　　青梅市立総合病院　5名
　　高木病院　1名
（参考）退会会員　鹿　野　純　一　会員 ― 鹿野クリニック（廃業）

2．新規会員年会費査定について　―― 承認 ――

【3】　協議事項

1．西多摩地域産業保健センターの活性化について

現在、センターが利用されていないためセンターの活性化をめざして、今後、サテライト方式について検討する予定。
次回理事会まで、継続審議とする。

会員通知

○会報
○学術講演会（8／9）
○産業医研修会（荏原・品川区医師会）
○安全な医療器材の開発に関する調査について（依頼）
○健康スポーツ医学講習会申込について
○13年2期会費納入について
○多摩医学会演題募集について
○平成13年度東京都医師会主催日本医師会生涯教育講座（8月～11月期）の開催について
○乳幼児医療費助成事業対象者の年齢引き上げ等について
○（青梅市立総合病院）第21回東京ＣＣＵ研究会の演題募集のご案内
○宿日直表（青梅・阿伎留・福生）
○(障)受給者証　(乳)医療証をお持ちの方へ（ポスター）
○医療広告規制緩和のポイント
○がん征圧月間　ポスター2種
○平成13年度外国人未払い医療費補てん金申請の手続
○救急の日　ポスター2種　ＡＢＣカード
○医師年金のおすすめ
○「医薬品・医療用具等安全性情報報告制度」へのご協力についてお願い（厚生労働省）
○産業医研修会（日本産業衛生学会関東産業医部会　9／30）
○　〃　（第11回日本産業衛生学会 10／19、10／20）
○　〃　（日本労働安全衛生コンサルタント会　11／25）
○　〃　（江東区医師会　11／25）
○　〃　（第5回労働衛生コンサルタント）

医師会の動き

医療機関数　196　病院　29
　　医院・診療所　167
会員数　426　A会員　189
　　B会員　237

会議
8月3日　在宅難病訪問診療（日の出）
24日　会報編集委員会
31日　在宅難病訪問診療（あきる野）

講演会・その他
8月8日　保険整備会
〃　法律相談
9日　学術講演会
演題：「心房細動に対するカテーテルアブレーション治療の実際」
講師：土浦協同病院
循環器科医長
高橋　淳　先生

【新規開業】
氏　名　笹本　良信
現住所　中野区中野4-3-1-806
施設名　(医社) 麗仁会
ささもと整形外科形成外科クリニック
所在地　福生市福生657
出身校　日本医科大学　S50年7月卒

お知らせ

事務局より　お知らせ

平成13年10月（9月診療分）の

保険請求書類提出

10月9日（火）

―― 正午迄です ――

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士　鈴木禧八先生による法律相談を毎月第二水曜日午後二時より実施しておりますのでお気軽にご相談ください。

◎相談日　**9月は12日（水）**
10月は10日（水）の予定です。
◎場　所　西多摩医師会館和室
◎内　容　医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・刑事に関するどのようなものでも結構です。
◎相談料　無料（但し相談を超える場合は別途）
◎申込方法　事前に医師会事務局迄お申込み願います。
（注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

表紙のことば

『アルプスの女王　モンブラン峰（4807m）』

モンブラン山群は優美で威厳のある雰囲気に包まれている。

氷雪に覆われた「アルプスの女王」モンブラン（4807m）はアルプス最高峰で、アルピニズム発祥の地である。

川崎健一郎

あとがき

今年は、夏休みを７月下旬に取り、岩手県陸中海岸に三陸鉄道の情緒と久慈の琥珀と海産物を楽しむ為に、行きました。

久慈の琥珀は中生代白亜紀後期の恐竜時代のもので、装飾品に加工されるものとしては世界最古の琥珀だそうです。琥珀は樹木の樹脂が変化して出来た、いわば“樹脂の化石”ですが、約8700万年前の昆虫の姿がそのままの姿で見られることに、古代のロマンを感じ、遺伝子工学の発展から未来へのロマンを感じつつ久慈をあとにし、三陸鉄道で小本に向かいました。三陸鉄道北リアス線は乗客も少なくゆったりとした気持ちで移動が出来ました、車の旅行では味わえないものが何かあるのでしょう。小本では龍泉洞（日本三大鍾乳洞の一つで名水百選でもある）に立ち寄り、名水を味わってきました、昨今ボトル入りの名水が出回っていますが、生の名水の味わいは格別なものでした。日本人として日本の美味しさに、感激した岩手旅行でした。

細谷純一郎

社団法人　西多摩医師会　平成13年9月1日発行

会長　宮川栄次　〒198-0044 東京都青梅市西分町3-103　TEL 0428 (23) 2171・FAX 0428 (24) 1615

会報編集委員会　森本　晉
石井好明　神尾重則　片平潤一　込田茂夫
清水佐和道　高水松夫　田村啓彦　細谷純一郎

印刷所　マスダ印刷　TEL 0428 (22) 3047・FAX 0428 (22) 9993

健康が21世紀の扉を開く

命の輝きを見つめ続けて‥‥
㈱武蔵臨床検査所

食品と院内の環境を科学する
F・Sサービス

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309－8
TEL 042-964-2621　FAX 042-964-6659

健康の輝きをひろげる。

株式会社 ビー・エム・エル

BML

本社・〒166 東京都杉並区高円寺南1-34-5 TEL.03-3316-0111(大代表)
総合研究所・〒350 埼玉県川越市的場1361-1 TEL.0492-32-0111(代)